

年頭のご挨拶

教学改革をさらに推し進めながら その成果を検証する ガバナンスの強化に努めます

新

しい年がやってまいりました。高大接続改革によって、大学入試をはじめ、教育界は大きな転換の時を迎えています。そのなかで、私も昨年の役員改選によって理事長職を引き続き務めさせていただくことになりました。少子化の波が否応なく押し寄せ、教育環境が厳しさを増すなか、学園の舵取りの重責を任され、これまでも増して、身の引き締まる思いです。

現在の教育機関には、ステークホルダーである生徒や学生、保護者の皆様はもちろん、社会に対しても学校情報を広く公開するとともに、学園の組織・運営、教育方針に基づいて進められる教学改革を常に点検・評価し、ガバナンスの強化を図っていくことが求められています。そして、点検・評価に当たっては、外部

の眼を採り入れることが必要不可欠とされています。

本学園でも昨年度から外部の学識経験者や企業のトップとして活躍されていた方を理事・評議員として招聘。第三者の視点から忌憚のない意見を述べていただき、それを今後の教学改革に活かし、ガバナンスを強化する方向に舵を切っています。同時に、自己点検・評価の結果を積極的に公開することで社会に開かれた学園としての責務を果たしていく所存です。

**大学は教養教育の改革を
中高は抜本的な意識改革を
推し進めることが必要**

大学では本年4月、「心理学部臨床心理学科」が誕生します。心理専門職初の国家資格である

「公認心理師」の育成を柱とする本学部の開設によって、大学は4学部を持つ総合大学として新たなスタートを切ります。

近年、大学では積極的に学部・学科の改組・新設に取り組んできましたが、今後は、教育の中身すなわち教養教育も含めたカリキュラムの抜本的な改革を進めることが肝要であると考えます。大学では何が学べ、どのような知識・技能が身につく、それを活かして社会のどのような分野で活躍できるのかを明確に示さなければ、今後、大学として生き残ることはできないからです。

一方、中高では昨年度から習熟度別クラス編成がスタートしました。今年度から入学試験に思考力試験を加えます。この新教育プロジェクトをより教育効果の高いものとするためにも、今後

は中高教員の一層の学習指導力向上をはじめとする抜本的な意識改革が必要だと思っています。

グローバル化が叫ばれる現代において、本学のような女子中学校、女子大学がめざすべきは、時代にふさわしい新しい教養教育を創造することだと考えます。それは文系・理系の枠を超えた文理融合型の教養教育です。文系であっても生命科学などの理系の知識もしっかり身につける。同時に、日本の歴史・文化と共に、欧米やアジアの歴史・文化も学ぶ。そのような幅広い教養こそが、グローバル社会を生き抜く女性となるために欠かせない素養となるでしょう。

教学改革推進には、皆様のご理解が欠かせません。どうか、今後とも一層のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。



跡見学園理事長
山崎 一穎